



DXPの「勝手にDX」提案《概要版》

マルハニチロ: 惑星規 模のタンパク質プラ ットフォームへ

マルハニチロの「勝手にDX」提案 - 世界No.1の海産物サ
プライヤーから、デジタル時代のタンパク質オーケスト
レーターへの進化

株式会社DXパートナーズ

2026年1月24日

ルールチェンジへの招待

創業140年を迎えるマルハニチロは、売上高1兆円規模の水産業界のリーダーです。しかし、その事業構造の根底には、アナログ時代に最適化された「リニアな成長モデル」が残存しています。

本提案の核心は、既存事業の改善を超え、競争のルールそのものを書き換える「ルールチェンジ」の実現です。物理的なモノを流す「パイプライン型」から、データとネットワーク効果で価値を増幅させる「プラットフォーム型」への転換を提言します。

1兆円

売上規模

世界最大級の水産会社

3%

営業利益率

薄利多売構造からの脱却が課題

70+

調達国数

グローバルネットワーク

アナログ前提ビジネスの限界

物理的制約

売上増加には在庫、倉庫、人員をリニアに増やす必要があり、スケールに限界があります。

情報の非対称性

電話・FAX依存の多段階流通構造が、食品ロスと鮮度劣化を生み出しています。

価格決定権の欠如

所与のマーケットで戦い、相場変動リスクを常に負っています。

成長メカニズム

資本投下によるリニア成長

ネットワーク効果による指數関数的成长

収益構造

コスト + マージン

限界費用ゼロに近い収益

顧客接点

取引時のみ(点)

常時接続(線・面)

Planetary Protein OS構想

マルハニチロが創出すべき新たな「場」は、海洋および陸上のタンパク質生産から消費までの全プロセスをデジタルツイン化し、最適化・取引・決済・融資を行う「共創の場」です。





顧客価値の再定義

価値享受者(バイヤー)

安定調達

AI需要予測による欠品なき
供給

適正価格

ダイナミックプライシング

完全透明性

産地から食卓までのトレー
サビリティ

価値提供者(生産者)

操業支援

データに基づくPrecision
Fishing

全量買取保証

価格変動リスクの軽減

金融サービス

データスコアリング融資

マルチ・レベニュー・ストリーム

%

×₁

テイクレート

マーケットプレイス手数料(成約金額の一部)

SaaSサブスク

養殖管理・需給予測システムの月額課金

[\$]

↗

Fintech

サプライチェーン・ファイナンスによる金利収入

データ販売

海洋・流通データの外部提供

- バリュースティックの最適化: トレーサビリティとストーリー性の付与により、コモディティ価格からの脱却を図ります。AI効率化で生産者コストを下げつつ、マルハニチロの仕入れ値を維持し、「三方よし」を実現します。

データドリブンな回し方

KKD(勘・経験・度胸)から、データに基づく科学的プロセスへ

01

入力(Input)

IoTセンサー、VMS位置情報、POSデータ、気象衛星データ、SNSトレンド

02

分析(Analysis)

ビッグデータのリアルタイム解析、成長予測、漁獲予測、価格弾性分析

03

予測(Prediction)

需要急増・供給不足の未来予測、リスク検知

04

選択肢(Options)

AIによる複数シナリオ生成と最適解の提示

05

判断(Judgment)

無選択型意思決定 - 承認ボタンのみで完結

06

フィードバック

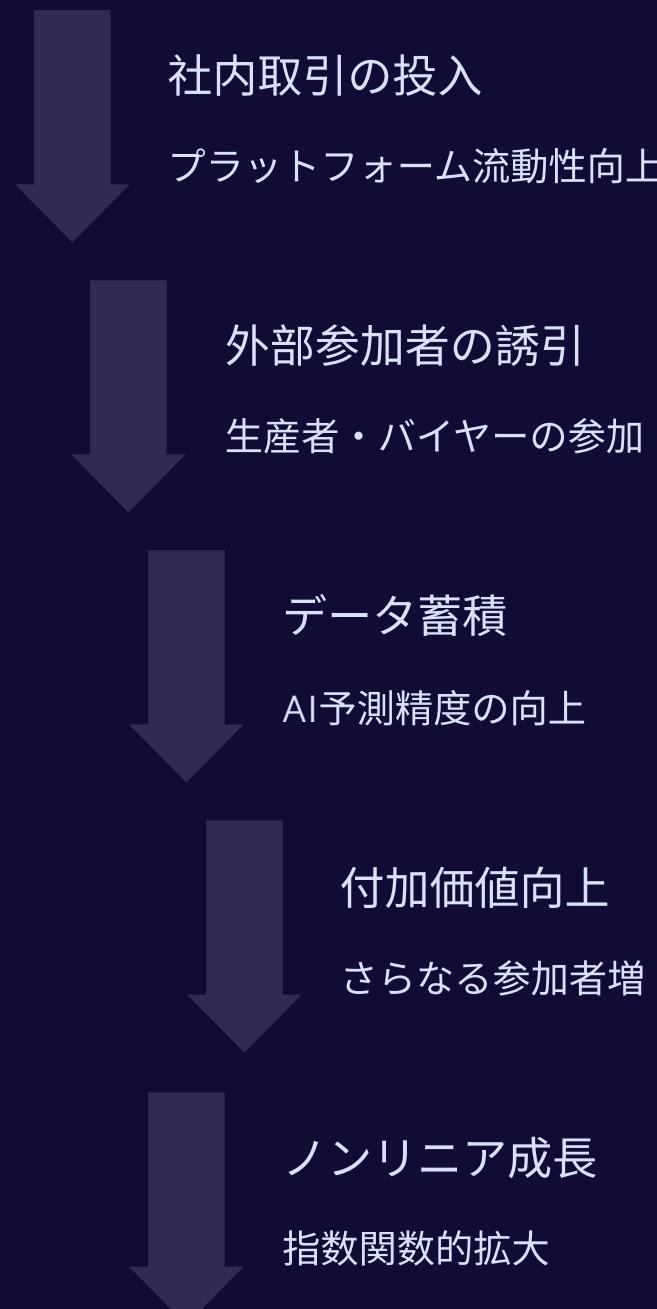
結果をシステムに還流し、予測モデルを自動更新

トロイの木馬戦略

コールドスタート問題の克服

マルハニチロは既に巨大な取引量を保有しています。まず社内取引を全てプラットフォーム上で行うことを強制し、立ち上げ初日から世界最大級の流動性を確保します。

十分な流動性が確保された状態で外部に開放すれば、ネットワーク効果の転換点を一気に突破できます。



Think Big, Start Small, Scale Fast

1 フェーズ1: Start Small

~2026年度

特定魚種・地域でのパイロット運用。社内デジタルラボ設置、MVP開発、FAX受注のデジタル化完了。

2 フェーズ2: Scale Fast

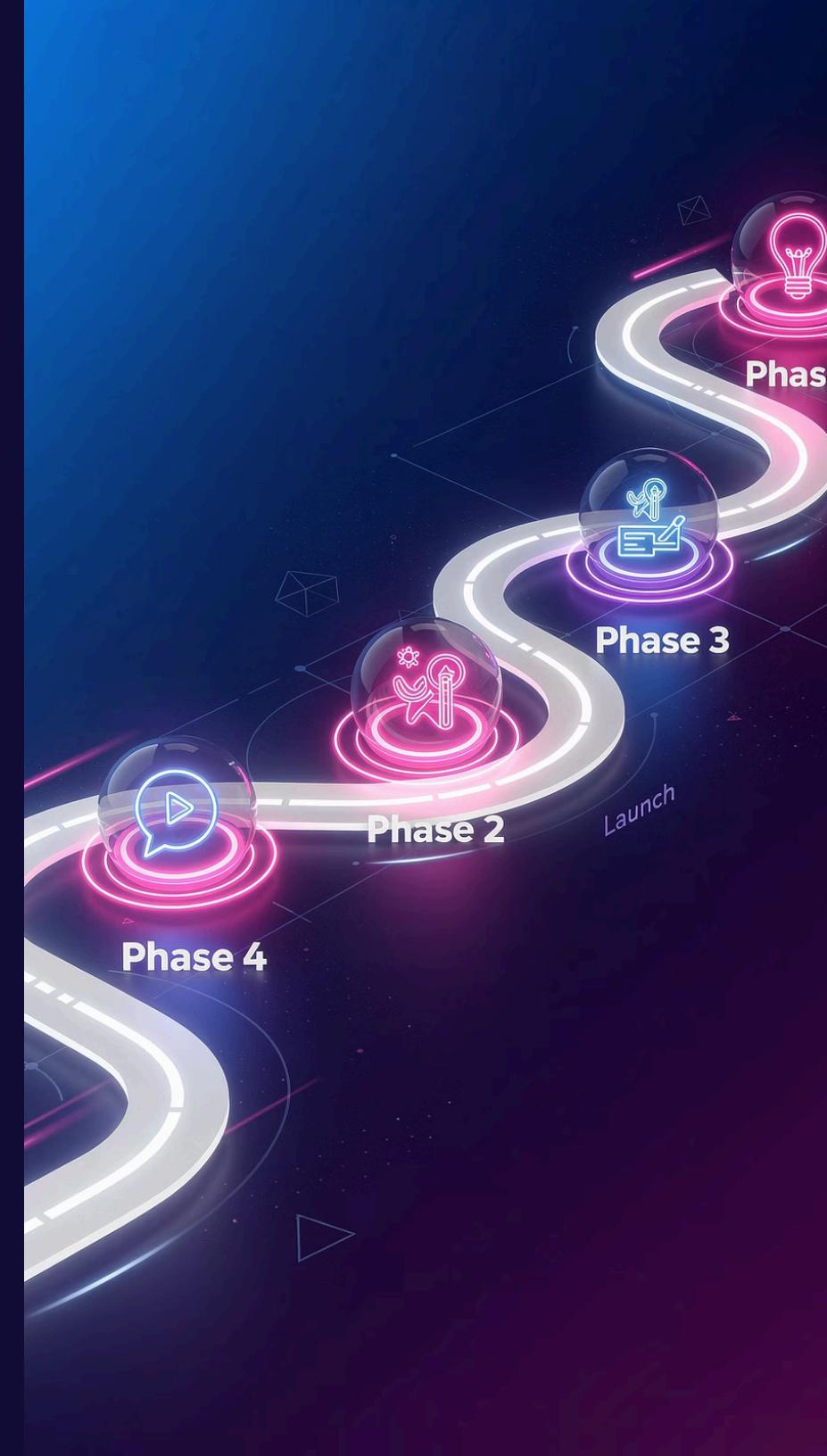
2027~2028年度

グループ全体の国内取引へ展開。物流API連携、自動発注・配送システム稼働。外部パートナー招待開始。

3 フェーズ3: Think Big

2029年度~

グローバル市場へ完全オープン化。業界標準インフラ化。金融・データ販売を本格化し、収益の柱をシフト。



ソフトウェア企業「うみお」へ



マルハニチロが保有するフィジカルな資産は、模倣困難な競争優位の源泉です。しかし、アナログなオペレーションで分断されている限り、それは単なるコストやリスクにしかなりません。

「デジタルを前提」としてこれらの資産をつなぎ直し、ネットワーク効果を働かせることで、物理的制約を超えたノンリニアな成長を実現できます。

新しい社名「うみお(Umios)」には、「海(Umi)」の「OS(Operating System)」になるという意思を込めるべきです。

このDX戦略を断行することで、マルハニチロは次の100年も、世界中の人々に「生きる力」を届け続ける、惑星規模の不可欠なインフラとなるでしょう。